

地域の医療資源 有機的なネットワーク作り 前進させたい 地域医療を守るためのしくみ

2016年

風と心

新たな取り組みに挑戦

■年頭の「あいさつ」

■ 昨年は自治体立優良病院表彰を皮切りに、手術支援ロボット「ダビンチ」運用開始、脳血管内治療開始、病院のロゴマーク選定など非常に多彩な出来ごとがありました。

■ 今年は、まず第三者機関による「病院機能評価」の受審を控えています。私は病院職員の能力・心意気の高さを肌で感じておりま



勝又胆沢病院院長

岩手県立胆沢病院
編集 広報委員会

〒023-0864
岩手県奥州市
水沢区字龍ヶ馬場61
TEL 0197-24-4121
FAX 0197-24-8194



す。立派にやり遂げてくれることを確信しております。

今年の目玉のひとつとして、意図的な『イノベーション』を行うことを挙げたいと思います。「高校野球から送りバントをなくする」級の、胆沢病院に革新

をもたらず何か画期的なアイデアを募集します。院内外から広く意見を吸い上げたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。(例えば・・・「胆沢」を正しく読んでもらえないことが多いので、病院の名前をひらがなに変える／「胆沢」にふりがなを付ける、とか)

対外的には、昨年からの取り組みでいる、地域の医療資源の有機的なネットワーク作りです。医師会・歯科医師会・薬剤師会・介護・福祉・行政などをひっくるめた地域医療を守るためのしくみ作りを前進させて、何かひとつでも良いので具

体的な形を実現させたいと望んでいます。全ての職種で使用可能な情報共有のためのツールの開発などがその候補となるでしょう。

また、この地域の一番の課題は、周産期医療だと感じています。その確保のための下地作りを今年も地道に継続していきたいと考えております。

地域住民が、安心して暮らせるような医療を「愛をもって提供する」という胆沢病院理念を行動指針として、今年も精一杯頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

(院長・勝又宇一郎)

岩手県立胆沢病院の基本理念

<胆沢病院 基本理念>

私たちは、地域の人々の健康と命を守るため、愛を持って地域医療に貢献します。

<行動指針>

1. 患者さんと家族、私たちとの協働医療(専門性を結集した多職種による、患者参加型のチーム医療)
2. 患者さんの背景・価値観に配慮した医療
3. 患者さんが安心できる、良質で安全な医療
4. 地域の医療・福祉・行政との連携と機能分担
5. 次の世代を担う優れた医療人の育成

<病院運営方針>

1. 救急医療を含む急性期医療
胆江保健医療圏域の基幹病院として、24時間対応の救急医療など、圏域の急性期医療、高度・専門医療を担います。
2. がん医療
地域がん診療連携拠点病院として、手術・化学療法・放射線治療・緩和ケアなど専門的ながん医療の提供や、がん患者に対する相談支援・情報提供を行います。
3. 地域医療支援
地域医療支援病院として、紹介・逆紹介の推進、地域医療機関との共同診療、地域の医療従事者・地域住民に対する研修・教育を行います。
4. 災害医療
地域災害拠点病院として、災害時の傷病者の受入れや地域医療機関への支援、DMATチームの派遣を行います。
5. 臨床研修、スタッフ教育
臨床研修指定病院・各種学会認定研修施設として、次の世代を担う医療従事者を育成するとともに、病院スタッフの研修に努めます。

上記5項目の実践・充実のため、誇りを持てる職場づくりと健全な病院経営に努めます。

睡眠時無呼吸症候群のおはなし

SAS(Sleep Apnea Syndrome)

<佐倉河地区センター>

出前医療講演にお伺いしました



講師の
鈴木俊郎医師

胆沢病院の出前「医療講演会」は、1月15日(金)午後2時から「佐倉河地区センター」において行われました。

「睡眠時無呼吸(症候群)のお話」と題して、胆沢病院地域医療福祉連携室長兼内科長兼呼吸器内科長の鈴木俊郎医師による講演に、地域住民ら20人の参加がありました。

睡眠時無呼吸症候群とは、文字とお



メモを取るなど興味深く聴き入る参加者のみなさん

り、眠っているときに無呼吸状態になる病気で、SAS(Sleep Apnea Syndrome)とも呼ばれています。無呼吸状態とは、呼吸が10秒以上止まっていることを指し、この状態が一晩7時間に30回以上、あるいは1時間あたり5回以上あるとSASとなります。

推定される奥州市におけるSAS潜在患者数は、統計で人口の2%とされており、2400人以上となり、治療を要する重症の患者数(潜在患者の25%とされる)は、約600人と説明がされると驚きの声が聴かれました。SASは、昼間の耐え難い眠気に襲われたり、記憶力の低下、性格の変化やうつ病など、症状によっては、交通事故への影響が懸念されます。

また、SASは、高血圧、心疾患、糖尿病や脳卒中などの合併症があるとされ、要注意ですが、適切な治療をすると、高血圧症や糖尿病が改善するとの研究報告がでています。

鈴木俊郎医師からは、いびき、日中の眠気、熟睡感がない、起床時の頭痛や眠っている間に呼吸がとまるなどの症状があれば、SASの疑いがあるため、心当たりのある方は、是非受診を

睡眠時無呼吸の評価(昼間の眠気の評価)

(Epworth Sleepiness Scale (ESS))

状況	点数
1. 座って読書をしているとき	0 1 2 3
2. テレビを観ているとき	0 1 2 3
3. 公の場所で座って何もしないとき(たとえば劇場や会議)	0 1 2 3
4. 1時間続けて車に乗せてもらっているとき	0 1 2 3
5. 状況が許せば、午後横になって休息するとき	0 1 2 3
6. 座って誰かと話をしているとき	0 1 2 3
7. 昼食後(お酒を飲まずに)静かに座しているとき	0 1 2 3
8. 車中で、交通渋滞で2~3分止まっているとき	0 1 2 3

0: 眠くならない 1: まれに眠くなる 2: しばしば眠くなる 3: よく眠る

合計11点以上は要注意!

※11点以下が問題ないわけではありません

してほしいと説明がありました。参加者の質問では、「軽度といわれたが、定期的に検査をしたほうがよいのか」、「飲酒や喫煙は関係があるのか」、「どのような検査か」などの質問が出され、分かりやすい説明にうなずく様子がありました。